

静岡県漁業協同組合連合会  
1130 静岡市追手町 9-18  
17.2.10 ☎ 054-254-6011  
編集・発行 = 指導部漁政課

## 1. 一都三県サバ漁海況検討会開催される

平成17年第1回1都3県サバ漁海況検討会が千葉、東京、神奈川、静岡の1都3県の水試や中央水研などの担当者が出席し開催され、今漁期の伊豆諸島周辺海域でのたもすくいによるマサバ、ゴマサバ漁についての見通しをまとめました。

それによると今漁期のたもすくいによるマサバ漁予測では、マサバ主体の漁場形成は期待できませんが、ひょうたん瀬 - 利島 - 大島の伊豆諸島北部海域でゴマサバ漁場が形成された場合、マサバが混獲される可能性があり、魚体は35 - 39㌫の3歳魚(14年級)が主体となると予測しています。

また、今期のたもすくいによるゴマサバ漁予測では、16年級群(1歳魚)が漁獲の主体で、15年級群(2歳魚)、14年級群(3歳魚)も混じり、魚体は30㌫以下が主体となります。漁獲量は1歳魚主体の漁獲となる場合は昨年を上回り、選択的に2歳魚以上を漁獲する場合には昨を下回ります。漁場は三宅島周辺海域が主体となり、漁期当初には伊豆諸島北部海域にも形成されると予測しています。

海況予測では黒潮の流型はA型で推移し、沿岸水温は伊豆諸島北部海域ではやや高めから極めて高めで、同南部海域では平年並みからやや高めとなるとしています。

## 2. 磯焼けは「魚食害」も原因 「ウニ食害」に並ぶ

水産庁・水産総合研究センター、全国の地方公共団体や漁協で構成される第2回緊急磯焼け対策モデル事業全国会議が去る2月3、4日の両日開催されました。

この事業は、国内の沿岸の利用・保全・開発や温暖化などの環境変化に伴って藻場が減退し、磯焼けが拡大する中で、藻場の形成阻害要因を特定し、その要因を効果的に排除する対策手法の開発を進め、ガイドライン化を目指しています。

磯焼け要因として「ウニ食害」に加えて、近年注目されてきたアイゴなどによる「魚食害」を検討し、平成16年度では、調査グループ ウニグループ 魚グループに分かれ、それぞれ調査を実施してきました。この調査報告によると、魚食害は概ね九州から関東・北陸まで発生しているものと判断され、魚食害に関しては、まだ未知数の部分が多いことから、引き続きアンケート調査や現地での目視観察を実施し、分布域の確認を行なっていく予定で、観察で要因を判断できない場合には、必要に応じて簡易的な現地試験方法を提案します。

今後も磯焼け対策の系統図をベースに事業を推進し、藻場を維持する上で地域の実情(食害動物自体が生産物としての価値を有していること、対策を広範囲にわたり効率的に実施する必要があること等)に即した対策が提案できるよう、主要な維持要因の単なる除去に留まらず、食害動物の摂取量と海藻の生産量のバランスを保つための「密度管理」という概念の確立を目指します。また、密度管理を的確に行なうための要素技術の開発と平行して、食害動物の有効利用にも取り組んでいきます。

## 3. 漁船の燃油対策・省エネルギー対策で提言

水産庁は、漁船漁業構造改革推進会議がとりまとめた「漁船の省エネルギー対策の推進」についての提言を取りまとめ、1月31日に公表しました。

漁船の省エネ対策は漁業種類や操業方式によって大きさも搭載機器も多様なもので、それぞれに応じた取り組みが必要です。個々の取り組みでは効果が小さいものもありますが、組み合わせることで大きな効果が期待でき、全体で10%の省エネが達成されれば14年の消費量で37万<sup>キロリットル</sup>、金額で174億円の節約が可能とされ、経済効果は大きくなることを指摘しました。通常航海で速力を減速し、船内の荷物を減らすこと、機関や推進装置の適正運転や保守・点検を励行すること、冷凍装置は必要最低限の運転を行い、漁労装置でも機械効率を上げることなどを列挙し、適切な操業計画の策定なども省エネに効果があるとしています。また、新技術の導入として、イカ釣り集魚灯に発光ダイオードを使用する技術、軸発電や電気推進システム、推進機関の排熱利用システム、風力・太陽エネルギーの利用などの省エネ効果が期待でき、適切な操業計画の策定なども省エネに効果があるとしています。

## 4. スマトラ島沖地震・津波被害 JFグループでも支援募金を!

昨年12月26日に発生したスマトラ島沖地震・津波による、インド洋津波被害により、インドネシア・スリランカ・インド・タイ・マレーシアの沿岸漁業者に多大な被害が出ており、現地はいまだ混乱状態が続いています。各報道では23万人を超える犠牲者のうち、その多くが漁業関係者と報じられています。

こうした中、JF全漁連はICA(国際協同組合同盟)本部、インドネシア全漁連、スリランカ大使館などによる要請を受け、JFグループとして支援募金を開始しました。

本会でも、東海・東南海・南海地震の発生が懸念される中、全漁連の要請を受け募金活動を行なうこととなりましたので、ご協力をお願いします。 問合せ先: 本会総務課 TEL054-252-5151

## 5. 新刊図書紹介 「静岡いるか漁ひと物語」 和田雄剛著

著者である和田さんは、県水産資源室に昨年異動になり、この年に伊東で5年ぶりのイルカ追い込み漁が行なわれることを知ったのがきっかけとなり、イルカ漁にまつわる小冊子『静岡いるか漁ひと物語』を自費出版しました。

本書では、イルカが貴重なタンパク源として重宝され、食糧難だった戦時中には、命がけでイルカを捕った漁師たちがいたことなどを紹介しているほか、江戸時代から現代までの静岡のイルカ漁の歴史資料としても活用できる一冊です。

昨年12月に、静岡郷土史研究会から初版千部が発行され、一冊600円で販売されています。 問合せ先: 県水産資源室(資源管理スタッフ主幹 和田さん) TEL: 054-221-2737

## 6. 諸会議日程(2月15日(火)~2月28日(月))

- 既報分省略 -

2月21日(月) 県漁連 = 県協同組合同提携推進協議会幹事・事務局会議 (県水産会館)

2月25日(金) 県漁業振興基金 = 伊豆地域マダイ協力金に係る懇談会 (内浦漁協)

2月25日(金) 県桜えび漁業組合 = 通常総会 (熱海市)

2月26日(土) 県おさかな普及協議会 = お魚料理教室 (あざれあ)